
白光の女神

空月 紫音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白光の女神

【Nコード】

N1097T

【作者名】

空月 紫音

【あらすじ】

目が覚めたら、見知らぬ泉にいたルナ。どうやら、プレイしていたVRMMORPGのゲーム『ユアンゼイク』の世界にきてしまったらしい。あまりのことに混乱していると、高位神の中でも力が強いといわれる女神リーニヤが現れて……！？

*** かなり
の不定期更新です。1話1話の長さが違います。***

第1話 リーニヤの泉で（前書き）

初投稿です。

至らぬところもありますが、よろしくお願いします。

第1話 リーニヤの泉で

優しい風が頬をなでる。

ルナは、大きく欠伸をしながら目を開けた。すると、そこには澄んだ青い空が見えた。所々に浮かんでいる雲は、綿菓子の様でとてもおいしそうだ——って、青空!?

(何で青空が見えるの!?)

あわてて飛び起き、辺りを見回す。

濃い緑の木々。

名も知れぬ色とりどりの花々。

その中心にある、昏々と水の湧き出る泉。

目の前に広がっているのは、信じられないほど美しく、神秘的な光景だった。

(……………そう、これは夢。絶対に夢だ)

そう思い、自分の頬を思いきり抓る。

(……………痛っ……………ということは、現実!?)

ひとまず混乱している頭を総動員して、なぜこんなところに居るのか、昨日の夜のことを思い出そうとする。

(えーと、確か昨日は『ユアンゼイク』をして、ログアウトしたら

……眠たくて寝てしまったはず………だよね？)

自分に問い掛けてみる。だが、どう見ても自分の部屋ではない。まさか——と、スターテス表示 と唱える。すると、見慣れた自分のスターテスが目の前に現れる。案の定、ログアウトという文字はどこを探してもない。一応、自分の姿も見てみる。

青いワンピースもどきの服に、腰に提げている短剣と茶色い袋。腰ほどまである藍色の髪。鏡がないのでわからないが蒼色には違いない瞳——を見て確信した。

「なんで私、『ユアンゼイク』の世界に来ているの—————
—————」

『ユアンゼイク』とは、創造神ユアンゼイクが創ったされる異世界が舞台のVRMMORPGだ。

自分で武器や魔法、料理などを創造できるという自由度の高さから、数多の熱狂的ファンと廃プレイヤーをつくり出した大人気ゲームで、ルナも毎日のように遊んでいた。なので、ゲーム内最高レベルである1000レベルまで育てて、転生も3回ほどしている。そんなゲームを熟知しているはずのルナでも、こんな場所は知らないし、聞いたこともない。

「ここは、どこ……？」

思わず呟いてしまったが、誰もそんな問いに答えるはずもない。はずなのだが——

「ここは、私の泉です」

突然、後ろから聞こえてきた声に思わず振り返る。

ありえないほど整った目鼻立ちに、角度によって濃さの変わる金色の瞳。地面につくほどまで伸ばされた、緩やかなウェーブがかかった白金の髪。身体から発せられる、強大な神々しい力の波動。

女神リーニャ

それが、目の前に立っている人物の名前だ。

数々いる神々の中で、創造神であるユアンゼイクをのぞいて最高だと言われる高位神であり、自然と魔法を司る神だ。ルナでも数えるほどしか会っていない神でもある。

（なんでこんなところに……いるの……？）

「それは、私がここに連れてきたからです」

リーニャは微笑を浮かべる。

花のように美しい笑みにルナはポーツと、見とれる。だが、聞き捨てならない事を聞いたような気がして正気に戻る。

（連れてきたーっ！？）

その言葉による衝撃は相当なもので、頭を思い切りたたかれたような感覚に陥る。

そんなルナの様子にリーニャは気付き、慌てて言葉を紡ぐ。

「私は、“異界の穴”^{テフト}から落ちてきて、倒れているあなたをここに連れてきただけです」

（“異界の穴”^{テフト}？）

聞いたことのない言葉に首をかしげる。

「この世界にある、異世界へ繋がっている穴のことです。あなた方は昔、ここに来ていたときも“異界の穴”^{テフト}を通して来ていたんですよ。そのときは体ではなく、魂だけでしたが」

（昔！？ ていうか、魂！？）

衝撃の事実には、ルナは驚きおののく。

「はい。700年昔ぐらいから“異界の穴”^{テフト}を通り、“異界の穴”^{テフト・ラグンナ}と呼ばれるあなた方がやって来たのです。

あなた方は、この世界を巣食う、魔物達を倒してくれましたが、400年昔から来なくなってしまったのです。それからでしょうか、“異界の穴”^{テフト}は暴走し、魔物などが通って来るようになりました。そして、あなたの様に、魂だけではなく体も引きずり込まれてしまう“異界の穴”^{テフト・ラグンナ}からの勇者”が続出してしまったのです」

一息もつかずそういう言つと、リーニヤはこちらを見てにつこりと微笑む。

ルナはその笑みを見て、なぜか死刑宣告をされる囚人のような気持ちしがした。そして、リーニヤが言う次の言葉に身構える。

「なので、ルナ。神になってくれませんか」

「えええええええええええええええええつ」

ルナから放たれた素つ頓狂な声に同意するかのうちに、木々が身を揺らした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1097t/>

白光の女神

2011年5月10日18時48分発行